

因果の道理を信じて生きる

加茂法話会 平成三十一年三月二十六日

一、人間としてこの人生において、心と行為が因となり、縁となり、果となって今の自分を作っている縁起の理を知らず、心と習慣のしがらみと責任を形成していることに気づかず、過去の縁を背負い、未来に種まく現在の重い意味をさとらず、善と悪とを見分ける心の力を持たない間違った考え方の人々と仲間になっではいけません。

根本的に言って、心と行為の縁起の理ははつきりとしていてごまかしようがないのです。こころを汚す悪しき行為をする人は闇に落ち、善を行う人は明るい世界に上るでしょう。それは毛筋ほどもごまかしようがありません。もしも心と行為の縁起の真理がないというならば、仏方がこの人間世界に現れて衆生を救うという仏縁も、達磨大師が西から来て迷いの人にさとりを伝える意義も成り立たないでしょう。

修証義 第四節 曹洞宗総合研究センター講師 中野東禅老師 訳

二、故吉澤正五氏(平成六年十一月逝去)の思い出

旧白根市市長を連続六期(昭和三六年〜昭和六〇年) 政府土囊事件

孫、奥様、次男を相次いで亡くされる。

法事での一言

最期の様子

三、大事なことは、良い行為には良い結果が伴われ、悪い行為には悪い結果が伴われるという因果応報の摂理を(善因楽果、悪因苦果)を素直に信じて、現在の一時一時をできるだけ善い行為を営むように励むことである。